

運転代行業者が協会

来月設立 安全対策で連携

山梨県内の運転代行業者が、業界団体の立ち上げに向けて準備を進めている。県内での組織化は初めてで、加盟社が連携して業界発展や交通安全活動などに取り組む。7月1日に設立会合を開き、会長など執行部を決める。

代行業者によると、飲酒運転の罰則強化を受けて、県内の代行業者数は増加した。一方で業者間の横のつながりはなく、現状では、安全対策への取り組みなども事業者ごとではばらばらだという。

新組織は全国組織となる全国運転代行協会(東京)の「山

梨真支部山梨協力会」として設立する。春、秋の交通安全運動期間に合同で参加するほか、代行業の社会的認知の向上などに取り組む。

事業所の所在地ごと、中央(甲府市周辺)、東(峡東地域)、西(峡中地域)の3ブロックに分割。支部長を選出し、各ブロックを中心に活動する。国中地域で営業する64社のうち、既に25社が参加を決めている。

今後は国中地域の加盟事業者を増やすと同時に、郡内地域の事業者にも参加を呼び掛ける。8月に発足パーティー

を開催。秋の交通安全運動期間から新組織として本格的に活動していく。(渡辺真紗美)